

2019 年度実施概要

学校名

埼玉県立所沢北高等学校

採択活動名

臨海実習およびその事前・事後学習

取り組みの概要

・実行程

① 7/31 (水)

7:00 学校出発 ==休憩あり==10:45 観音崎自然博物館== 生物野外実習 == 昼食(弁当)
 ==観音崎自然博物館 ウニの発生 ==16:30 博物館発=17:30 城ヶ島京急ホテル= 海浜ホール(荷物)
 =17:50 入浴 夕飯 =20:00 三崎臨海実験所 黒川大輔助教 講演 =21:00 夜間ウニ実習
 ==22:00 就寝

② 8/1 (木)

(早朝ウニ実習) = 起床6:00 ウニ実習・荷物整理 =7:30 朝食 =8:45 地学野外実習
 =11:30 ホテル 入浴・着替え・昼食・荷物整理 =13:30 ホテル出発 ==17:30 学校着

・実施内容

事前学習 65分×2時間

- ・海綿動物や棘皮動物などの分類やウニの初期発生の仕組みについて理解を深めた
- ・クリノメーターの使い方を研修し、海岸の特徴のある地質や地層を学習した

7月31日(臨海実習1日目) 磯の生物の観察

- ・観音崎自然博物館の体験プログラムに参加しカイメンやウミウシ、イソギンチャク、その他を観察する
- ・ムラサキウニのKC1による放精放卵、顕微鏡下での人工授精・初期発生の様子を顕鏡し、スケッチする その後継続観察
- ・東京大学三崎臨海実験所の黒川先生による講演 質疑応答含めて90分程度
 三崎の臨海実験所の説明や生物の体制、胚葉の分化、GFPによる発生現象の可視化などについて学習

8月1日(臨海実習当日2日目) 城ヶ島の地質の観察

- ・クリノメーターで地層の走向傾斜を測る他、隆起による地層の変化や断層、差別浸食、級化層理、生痕化石などの観察、鍵層についての理解を深める

事後学習

5人班ごとに成果をレポートにまとめて作成し実習書と共に提出

連携機関 観音崎自然博物館

東京大学三崎臨海実験所 (荒天時に施設見学)

活動中の写真





実施単元名 ※実施した単元の数に応じて記載してください

1. 動物の初期発生
2. 生物の分類
3. 海岸の地質とその成り立ち